エル・エル・クラブニュース　12 月

師　　走：第498 号(創刊1975年)
しわす：2019年(令和元年)12 月1日
発　　行：県ドリームハイツエルエルクラブ
文　　責：会　　長　　鈴木　健之

Living　Life　Club　とは『いきいきとした 楽しいクラブ』です

現在の会員数	合　計	男	女
当　　月	97	46	51
前　　月	96	46	50
増　　減	1	0	1

≪社会行事≫　　7 日(土)大雪、22 日(日)冬至
≪地域行事≫ 大正地区センターまつり 7～8 日、
29 日～1 月 3 日県ハイツ年末年始休日

12月	日	曜	時　間	場　所
役　　員	10	火	10:30～	第 1　2FC
月 例 会 忘 年 会	19	木	12:30～	第 1　洋
民　　踊	24	火	休み	第 1　洋
カラオケ	2 16 11 25	月 月 水 水	14:00～	第 2　洋
グラウンド ゴルフ	毎 週	火 水 木	8:00～	第 1 公園
スポーツ 吹矢	6 12 20	金 木 金	13:00～	第 1　洋
ボッチャ	13 26	金 木	14:00～ 13:00～	第 1　洋
清　　掃	1	日	7:00～	第1公園

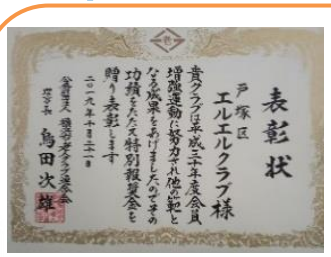
≪季節の風物詩≫

師走(しわす)　正しい語源は何か分かっておらずいくつかの説があります
＊お坊さん説　：　師＝和尚　12 月はお経を唱える為に東西あちこち馳せ参じる様子から師馳す(しはす)　師走(しわす)となったというもの。
＊時は季節説　：　年が果てるという意味から年果つ＝としはつ＝しはす＝しわす(師走)。
いづれにしても根拠のある語源ではありません。
現在の日本では陽暦(新歴)の 12 月に当てはめ「師走＝12 月の和風月日」として用いています。

≪ L・L 俳句 ≫
熱燗に　亡き友垣の　貌浮かぶ　　(主水介)
あれやこれ　心を急かす　師走かな　(たたえ)
甘菊の　香を楽しみて　三杯酢　　(益之助)

(11 月　月例会)　参加者 男 18 名･女 23 名
＊福祉演芸大会(11/25)に民踊部が参加しました
＊ﾄﾞﾘｰﾑﾌｪｽﾀで(赤飯.団子.おはぎ.ｻﾌﾞﾚ等完売)
＊バス旅行　42 名参加(芦ノ湖　修善寺　沼津)
＊新入会員　齋藤節子さん(8-602)
＊12 月例会は忘年会　参加費 800 円(10 日まで)

11 月誕生者



会員増強運動の表彰状

30 年度会員増強 75 名から 84 名に対して表彰状と特別報奨金を授与

祝　12月生まれの方々
(敬称略)
佐々木 正保(傘寿)
山田　治男(傘寿)
根岸　皓子(喜寿)
福幸 枝　高橋 久子
近江 明美　泉 尚文
小島甲子治 鈴木英子

≪会員投稿≫ 𝄞 横浜市歌の生い立ち！

エルエルに入会して、中学校卒業以来久々に横浜市歌を歌いました。
定例会に必ず歌うことで自分は横浜市民だったと教えられた思いがしました。今まで、無意識に歌ってきた、市歌の意味を調べて見ました。昭和初期に全国の大都市がこぞって市歌を制定されましたがこの頃は 5,7,5 調だったそうです。今日まで市民に親しまれて、明治の開港記念日 1909 年明治 42 年 7 月 1 日以来歌い継がれている市は、大都市横浜市だけのようです。19 世紀に入り日本も文明開化の気運が高まっていたことも有りヨーロッパに派遣されて、任期を終えて帰国した森林太朗(森鷗外)が注目されていました。その頃横浜市は開港記念50周年を迎えており、当時横浜市長であった三橋信方の代理人で三宅成城、(教育課長)が森鷗外を訪問して市歌の作詞を依頼しています。一方で明治41年東京音楽学校助教授であった若手 27 歳、南能衛、(みなみよしえ)に作曲を依頼していますが曲が先に作られ森鷗外が曲に合わせて作詞しています。
横浜開港記念帖によると作製総額、472 円 80 銭、現在で約1千万円弱、作詞の鷗外に 200 万円とその他に銀製のタバコケースが贈られています。作曲者、南能衛には横浜に 2 回来訪しており宿泊料金と弁当代金込で 125 万 6 千円が支払われています。当時の市長が日々発展する横浜が、どの様に栄えてきたのか、又どの様に栄えて行くのかを後世に伝える為に市歌を作ったことは、製作費で推測されると思います。
110 年間市民に親しまれている市歌は、三橋信方市長が残してくれた横浜市民の宝となっています。
(　11-806　中田 和日古　)